

2012年度秋季企画展

癩院記録

— 北條民雄が書いた絶対隔離下の療養所 —



2012年10月6日(土)→12月27日(木)

国立ハンセン病資料館企画展示室

2012 (平成24)年度秋季企画展「^{らいしん きょうく}癪院記録—北條民雄が書いた絶対隔離下の療養所—」は、絶対隔離の時代の療養所内を記録した随筆「癪院記録」「続癪院記録」を、当時の道具や写真を用いて展示化したものです。著者の北條民雄は小説「いのちの初夜」で知られ、入所してから亡くなるまでの3年半の間に、癪患者の姿を通して新しい人間像を描こうと、優れた文章を数多く残しました。

今回の企画展で描く療養所の様子は、プロミンにはじまる化学療法がまだなかった時代のものです。今ではあり得なくなった状況を改めて取り上げる理由は、今回の展示の土台をなす北條民雄の随筆が、症状の重さをはじめ患者を取り巻く当時の状況を背景にして、重度の身体障害を負う者や、症状の進行を止められない病気を患う者が身をもって示す、“それでも人間として生きることの尊さ”を描いているからです。これは原因や時代背景が異なっていたとし

ても、その人がいかなる状況にあっても人間として存在しているのだという意味で、まぎれもなく社会にとって今日的課題であるはずです。

元の随筆に加え、展示としても表現することで、私たちは総合すれば文章表現だけでは持ち得なかったリアリティを持つことができるでしょう。目を背けることなく当時存在した背景を認識することではじめて、その中で患者が示した生きることの尊さにも共感できるのだと思います。そのため今回の展示では、随筆に書かれている状況をできるだけ忠実に再現することをめざしました。そこから手に入れる絶対隔離下の療養所と患者についての歴史認識が、今いる個々の回復者と向き合った人間関係につながれば幸いです。また、ハンセン病の歴史と今日的課題との接点を、患者・回復者ではない私たちそれぞれが見つけるのに役立つことを期待します。



雨など降るとひどいぬかるみが出来て、足に巻いた繃帯はどろどろに汚れ、盲人は道路に立つたまま動きようもなく行きなやまなければならぬ。そこで院内の幹線道路には石が敷かれて歩行を助けるように出来ている。



病人S氏の咽喉管(カニユーレ)を引き抜き、吸入をかけてやる。カニユーレの掃除。初めてのことで、T氏に教わる。見るに堪えなし。これを称して「ノド掃除」と言う。

■付帯事業

北條民雄の人物像や作品について、『吹雪と細雨 北條民雄・いのちの旅』(皓星社 2003年)の著者による講演会を開催します。

講演者=清原 工氏(きよはらたくみ フリーライター)

開催日時=11月10日(土) 午後1時30分~3時(午後1時開場)

会場=当館映像ホール 定員=150人(予約不要・先着順)

■開館時間=9:30~16:30(入館は16:00まで)

■休館日=月曜日、祝日の次の日、館内整理日

■入館無料

■来館案内

●西武池袋線清瀬駅南口より、西武バス「久米川駅」行きもしくは「所沢駅東口」行きに乗車、約15分

●西武新宿線久米川駅北口より、西武バス「清瀬駅南口」行きに乗車、約20分

いずれもバス停「ハンセン病資料館」下車すぐ

●JR武蔵野線新秋津駅より徒歩20分

●関越自動車道 所沢I.C.より約30分(駐車場あり)

国立ハンセン病資料館

National Hansen's Disease Museum

〒189-0002東京都東村山市青葉町4-1-13 TEL.042-396-2909 FAX.042-396-2981

URL <http://www.hansen-dis.jp/>

